



## 言語聴覚士より

### 発音の不明瞭さを改善するために家庭でできる取り組みについて

言語聴覚士は、外部専門員として、児童・生徒の言語発達やコミュニケーション能力の評価や支援に対して、教員に助言を行います。学校でも家庭でも、発音の不明瞭さが課題になって、改善が望まれる児童・生徒は多く、今回は、本校外部専門員の心身障害児総合医療療育センターの言語聴覚士田中伸二先生に、発音の改善について家庭や学校で取り組める内容について執筆いただきました。

#### ◇発音がはっきりしない理由

おしゃべりはしているが、発音が不明瞭で聞き取りにくい場合、主に以下の3つの理由が関係していることが多いです。

- ①口周りの運動機能が未熟（舌や唇の使い方が不器用、筋の張りが弱い）
- ②言語発達の途上である
- ③言葉の音の聞き取り・聞き分けが苦手

①は本校児童生徒に最も多くみられる問題で、筋肉の張りは筋緊張と言い、筋肉が本来持っているバネの力が柔らかく、結果難しい子音や連続的な速い会話がしにくく、舌足らずのような話し方になります。②は言葉をしゃべり始めて年月が経っていない場合に生じる発音の未熟さで、つまり時間や成長とともに発音は改善していきます。③は意外と知られてない問題で、名詞系の語彙が増えにくいことや、ひらがな、数字の学習の難しさとも関係します。

#### ◇言語聴覚士による専門的な発音訓練と家庭で日常的にできる発音改善の試みについて

不明瞭な発音に対する効果的な指導は、言語聴覚士による包括的な児童・生徒の発達評価に基づく系統立った指導が望ましく、一人ひとりに合わせた個別化された訓練や指導が本来必要となりますが、以下のようなポイントを参考にしながら、児童・生徒に合わせて使えそうな働きかけを試してみて、よい変化を導けそうな場合、継続的に取り組んでいただくとよい成果を得ることができるかもしれません。

#### ◇発音不明瞭の特徴や傾向

発音の不明瞭さには、主に以下の二点の特徴・傾向があります。

- ①特定の音が発音できない。
- ②連続的な会話や文章、単語で話すときに発音できない。

①は、サ行やラ行など特定の子音の発音ができないなどです。マ行やパ行、カ行やタ行の発音は音が比較的簡単なので、これが言えない場合は、理由の確認や可能なら発音できるような意図的な誘導があるとよいかもしれません。サ行やラ行が未熟な場合は、時間とともに明瞭になっていくこと

が比較的多いことが知られています。②は、一つひとつの音を模倣させると言えるのに単語や会話では不明瞭になってしまう傾向で、知的発達や運動発達に遅れがある児童・生徒に生じやすい問題です。

#### ◇発音改善のために家庭でできる対応

支援① 話す速度を落とす。

支援② 文字の学習を進める。

支援③ 発音の揺れ（きれいに言えるときと言えないときがあるなど）があるときは少しでもいい音が出たら褒めて強化する。

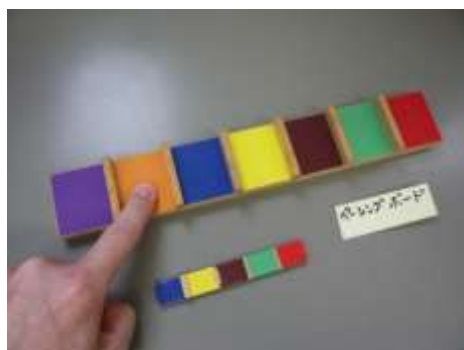
#できる4 特定の音の模倣や誘導

#### 支援① 話す速度を落とす

一音ずつだと言えるのに会話になると発音がはっきりしない場合は、話す速度を落とさせるだけで発音ははっきりします。しかし人は速度を意識しないで普通話をするので、自分で話す速度を落とすことは簡単ではありません。そこで話す速度を落とすための方法として次のような方法があります。

##### 支援①-1 ペーシングボードを使う

一つのマスに一つの音を割り当てて、指でタップしながら話させます。指でタップすることで、自動的に話速が落ちます。ただし文字学習が一定程度進んでいる児童・生徒しか使えません。



##### 支援①-2 文字を読ませる

例えば、「ヘリコプター」が言いにくく、「ヘプター」などと単純化して端折って発音してしまうような場合、「ヘリコプター」の文字を読ませると、これも自動的に話速を落とさせることになり、また一文字ずつを発音することになるので正しく発音しやすくなります。文字学習が一定程度進んでいる児童・生徒には活用できる方法となります。



##### 支援①-3 聞き返されたときだけ意識してゆっくり発音させる

普段は自分の喋りたい速度で話させ、あまり不明瞭なとき（かつ一音ずつだともっとはっきり話

せる音の語彙のとき)には、「え？」と聞き返し、聞き返されたときだけ、本人が「そうだ！ ゆっくりだった！」と意識して、ゆっくり丁寧に言い直す習慣を付けさせます。聞き返すときに、” 頑張っ てゆっくり丁寧に言ってくださいね” というメッセージを児童・生徒に意識させるような合図やマークを見せることもするとお分かりやすいかもしれません。ただし、聞き返しが多すぎたり、指示的に聞き返したりすると子ども側が抵抗感を持ちやすく、嫌な気持ちになってしまうので、聞き返すときはできるだけ誉めながらかわるよう にしましょう。

## 支援② 文字の学習を進める

文字は一つの形(文字)に一つの音が対応しているので、文字を学習すると音の認識力や音のイメージ力が上がり、児童・生徒が自分で発音を意識して明瞭に話す力を上げることに貢献し、発音の改善につながります。

## 支援③ 発音の揺れがあるときは少しでもいい音が出たら褒めて強化する

例えば、返事の「はい」が「あい」になってしまうことが多く、/h/の子音が出たり出なかったりすることがあります。このとき「はい」の/h/の子音が入った発音ができた時に、「それ！」と特別誉めて、徐々に子どもがそのコツを意識して自分でコントロールして、いつもその音と言えるように導くことができます。「おちゃ」の「チャ」などの発音も「おた」に近い発音から「おちゃ」に近い発音までそのときどきで発音が変わることがありますが(これを発音の”揺れ(浮動性)”と言います)、より「ちゃ」に近い音が出せたときに褒めてやると、早くそのコツを覚えて一貫して「ちゃ」の発音と言えるようになります。

## 支援④ 特定の音の模倣や誘導

これはやり方によっては、子どもにも指導者側にも負担やストレスがかかるので、強くお勧めするものではありませんが、専門家や教員と相談・連携しながら取り組めるとより高い効果が期待できます。

- \*母音の「あいうえお」：主に口の形を真似るだけで出しやすい音です。
- \*マ行：口を閉じて「んー」を言いながら口を開くと自動的に出る子音です。
- \*パ行、バ行：唇の破裂の子音なので口の動きを見て真似やすい子音です。
- \*カ行：うがいと全く同じ運動で出せる音なので、うがいの練習や習慣化が効果的です。
- \*タ行、サ行などは誘導が難しい音になります。

以上できそうな試みがあれば試してみて、よい結果が出そうな場合は無理ない範囲で続けてみてください。うまくいかない場合や試みが難しい場合は、教員にお声かけいただき、必要に応じて外部相談員も一緒に相談しながら支援を進めていきたいと思 います。

### 【問い合わせ】

東京都立高島特別支援学校

Tel 03(3938)0415

副校長 渡部 早苗

研究研修部 宮越弘子